

最初のお話をします。

私たちが住む日本では、自然災害というものが多く発生しています。例えば、地震であります。また、夏になると台風や雨による被害が増えると言われています。そのため、毎年のように日本のどこかで自然災害が起こっているというニュースを、皆さんも見たことがあると思います。

このような被害を受けた地域におきましては、今までの生活に戻るように、まず道路や住宅を修理するところから始まります。しかし、元に戻るまで、実際には何年もかかります。とても時間がかかるものですから、その地域に住んでいない人たちにとりましては、記憶がだんだんと薄れていってしまうわけがあります。

そうならないために、ある取組が始まっています。どういう取組かといいますと、その地域に行ってみるというものであります。例えば被害の状況を自分の目で見ますと、災害の大きさを実感することができます。あるいは、実際に被害を受けた人たちから話を聞くことによって、ニュースなどで見るよりも多くのことを学べるのであります。それだけではありません。その地域の歴史とか文化についてももっと知ることができます。このような取組を通じて、災害があったことを忘れないようにするのであります。

それに加えて、災害が起こったときにごのような行動をすればよいかということを考えるきっかけにもなります。そして、災害に備えるために日頃から意識するようになります。自然災害は、いつ起こるか分かりません。ですから、一人一人が考えることで、今後、災害が起こったときの被害をより少なくすることができるとも思われます。

私も、数年前にある地域を訪ねました。そこは、地震の被害が非常に大きかったところでありました。ここには、その地域のシンボルであるお城があります。しかし、そのお城も地震によって多くの被害を受けていました。そして、修復の作業をしている様子を目の前で見てきたのであります。こうした姿を見て、私は、これが元に戻るまで時間がかかりそうだと感じました。また、ニュースで見ていたよりも被害が大きいことを目の当たりにしまして、この災害について知ったつもりでいた自分を恥ずかしく思ったほどであります。

今述べたような取組につきましては、旅行会社でもツアーなどを企画しているところがあります。皆さんも実際に行ってみて、自分の目で確かめてみてはいかがでしょうか。

次のテーマに入ります。

私の趣味は、写真を撮ることです。特

に、鉄道の写真を撮ることが好きであります。今の季節でありましたら、新緑の風景とともに鉄道を撮ります。また、雨が降っている中を走る姿も、味わいがあります。また、雨が降っていないものでもあります。先日は、写真を撮るために少し遠くまで出かけました。古くなった鉄道車両が引退するというニュースを見たからであります。このように、写真を撮りながら各地を旅行するというのもよくあります。

ところで、鉄道の写真を撮ることについて、以前から問題になっていることがあります。それは何かといいますと、よい写真を撮るために、危険な行為をしたり、迷惑をかけたりの人があるということです。

例えば、迫力のある写真を撮ろうとして線路の中に入る人がいるそうです。あるいは、駅のホームから身を乗り出して写真を撮ろうとする人もいます。こういったことはとても危険であります。さらに、そのせいで急ブレーキをかける場合があります。そうなりますと、乗客にも危険が及びます。また、遅れが生じる原因にもなります。多くの人たちに迷惑をかけてしまうのであります。そのほかに、よい写真を撮るために、駐車してはいけないところに車を止めたり、写真に入らないように勝手に物を動かしたりする人がいて、地域の住民との間で

トラブルになるということもあるようであります。

一方で、ある地域では、住民の協力が話題になりました。どのようなことをしたのかといいますと、車で来た人たちのために駐車場を用意したのであります。そのときに近くのお店などを紹介しまして、そこに立ち寄ってもらうようにしました。このように写真を撮るために訪れた人たちとコミュニケーションを図りまして、よい関係を築いていきました。その結果、みんながマナーを守るようになって、トラブルが減少していったということがあります。

そのほかにも、鉄道会社ではポスターや動画でマナーの向上を呼びかけています。また、写真の上手な撮り方を教えたり、特別な鉄道の写真を撮れるようなイベントを開いたりしているところもあります。こういった場を通じて写真を撮るときは行動について考えてもらうように取り組んでいるのであります。

いずれにしても、ほとんどの人たちは、楽しく写真を撮りたいと思っているはずであります。私も、ルールとマナーを守って、これからも写真を撮っていいように思っています。

最後に、お金の教育についてお話をしたいと思います。

数年前のことになりますが、高校でお金に関

する教育が始まりました。これは、成年年齢が十八歳に引き下げられたということが背景にあります。それまで、日本では子供に対してお金の教育をしてきませんでした。それは一体なぜなのでしょう。

その理由の一つに、今の大人が子供の頃にお金の教育を受けてこなかったということがあります。どういふことかといいますと、日本では古くから人前でお金のことを話すのははしたないと考えられていました。ですから、子供の前ではお金の話をしないという家庭が多かったのではないかと思います。

そういったこともありまして、お金が私たちの生活の中でどのような役割を果たしているかは、学校でも具体的に扱われることがなかったのであります。

では、実際に高校で学ぶお金の教育にはどのようなものがあるのでしょうか。

まず、これは家庭科で学びます。お金の仕組みについては社会科で学ぶと思った人もいるかもしれませんが。しかし、家庭科は、もともと生活のために必要なことを学ぶためのものであります。私たちの生活を通じてお金のことを勉強するということは、将来に役立ちます。しかも身近なところからお金に関することが学べるのであります。

次に、家庭科で行われるお金の教育につきまして、具体的に述べてみたいと思います。

一つは、お金を管理することについて学ぶというものであります。つまり、私たちが生活するにはどれくらいのお金が必要かを知るというものであります。その上で、病気やけがに備えましてお金をしっかりと管理する方法を学びます。

また、将来の生活を考える上で必要なお金の使い方でありますとか、夢や目標をかなえるためにはどのようにお金を準備すればよいかといったことを考えます。さらに、老後のために残しておくべきお金についても学びます。

最近では、お金の知識が身につくゲームもあるようであります。お金について学べる絵本もあります。このように、高校生でなくても学べる機会が増えてきています。

そうはいいまして、お金に関する知識は、まずは大人が身につける必要があります。なぜなら、こうしたことは個人の生活を豊かにするためでもありますし、社会全体を豊かにするためにも役立つからであります。この機会に、大人の皆さんもお金について学んでみるとよいかもしれません。(了)